

私のボランティア ～「ロゴ」を生きる場所¹

坂本多香子

私は、昨年末に長く勤務した職場を退職し、現在は二つのボランティア活動に参加をしています。ひとつは、ある団体に属しての電話相談、もう一つは、仙台のある病院のホスピス病棟での奉仕です。

1. ボランティア参加にいたるまで

私はこれら二つの活動に、20年前のほぼ同時期に参加しました。そのきっかけは、どちらも偶然の出会いとも言えますが、背景には、40代半ばで夫を亡くしたことがあるのかもしれませんが、夫の死から数年経ち、日常の生活は取り戻しましたが、どこか虚しいような、何か忘れ物をしているような、自分の人生を歩いている実感がありませんでした。そんな時、新聞で電話相談のボランティア募集のことを知りました。

「人の話を聴く」

生前、私たちは、比較的によく話をする夫婦だったと思いますが、ガンの発病以降、夫の病状が速く進んだことや、単身赴任中の入院で、私が仙台と東京を行ったり来たりで、ゆっくり話をする余裕がありませんでした。「もっと彼の話を聴いておきたかった」その心残りが、この活動への参加につながったのかもしれませんが、が、今振り返ると、自分の虚しさを埋めるための「自分探し」でもあったことに気づきます。

2. 電話相談での行き詰まり